

平成19年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 マダラ

学名 *Gadus macrocephalus*

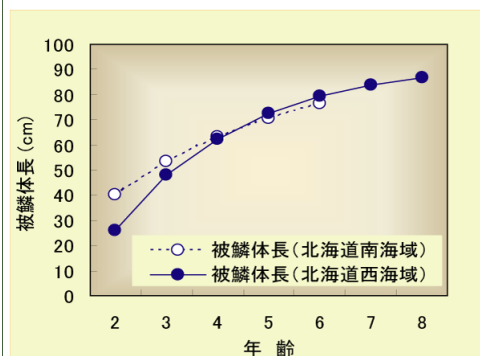
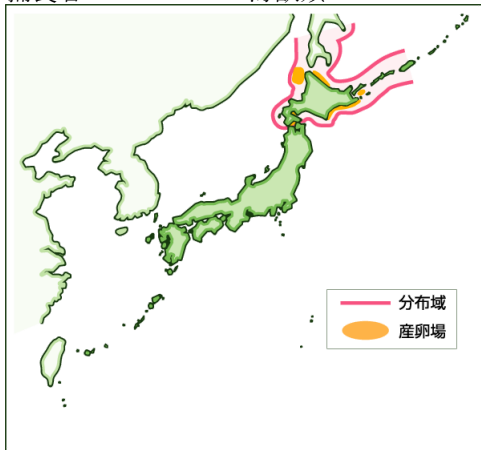
系群名 北海道

担当水研 北海道区水産研究所



生物学的特性

寿命: 不明
成熟開始年齢: 雄3歳、雌4歳(北海道南海域)
産卵期・産卵場: 冬季(12～3月)、分布域全体
索餌期・索餌場: 不明
食性: 幼稚魚期は主にカイアシ類、底生生活に入ってからには主に魚類、甲殻類、頭足類、貝類
捕食者: 海獣類

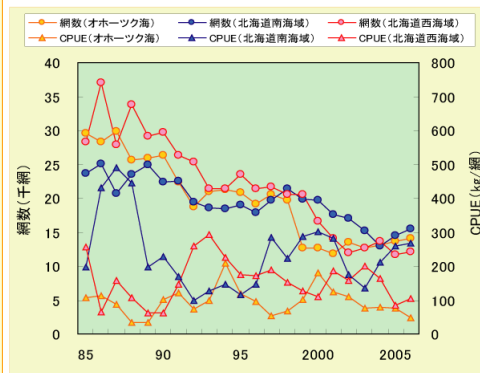
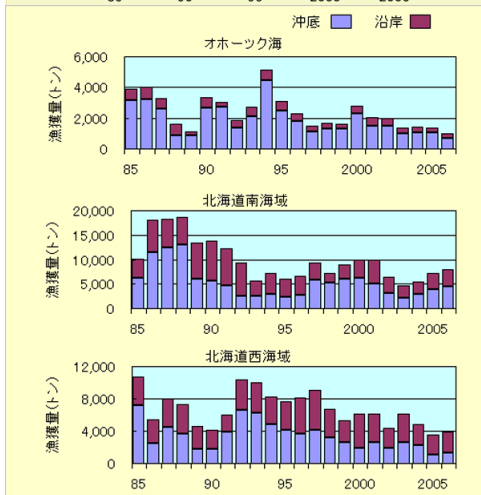
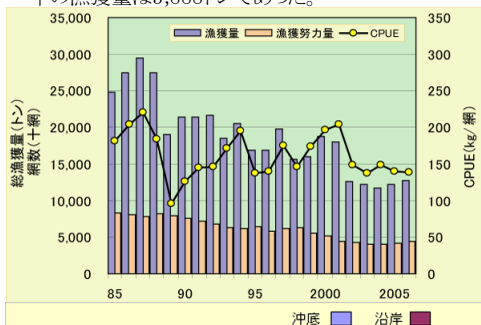


漁業の特徴

北海道周辺のマダラは、沖合底びき網漁業(沖底)に加え、刺し網、延縄などの沿岸漁業によって漁獲されている。北海道周辺における主な漁場は、オホーツク海では北見大和堆周辺海域、北海道南海域では十勝～根室沖、北海道西海域では武蔵堆～利尻・礼文島周辺海域である。漁獲はほぼ周年であるが、主漁期は冬季である。

漁獲の動向

全海域を合わせた漁獲量は、1980年代後半以降減少傾向にあり、2002年以降は12,000トン前後でほぼ横ばいである。2006年の漁獲量は12,757トンであった。オホーツク海における漁獲量は、1980年代後半以降減少傾向にあり、2006年の漁獲量は1985年以降最低の1,004トンであった。北海道南海域における漁獲量は、2003年以降増加しており、2006年の漁獲量は7,865トンであった。北海道西海域における漁獲量は、1992年以降減少傾向にあり、2006年の漁獲量は3,888トンであった。

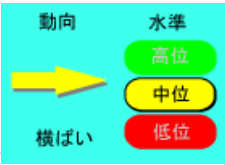


資源評価法

全体の漁獲量の5～7割を占める沖底のCPUEに基づいて資源評価を行った。なお、沿岸漁業の漁獲努力量に関しては情報が得られておらず、沿岸漁業の漁獲量から資源状態を判断することは困難である。

資源状態

全海域を合わせた沖底のCPUEは、1985年以降95～221kg/網の範囲で推移している。その中で、2002年以降は137～149kg/網の範囲で推移しており、2006年のCPUEは139kg/網であった。よって、資源全体としての水準および動向は、それぞれ中位で横ばいと判断した。また、過去22年間(1985～2006年)におけるCPUEの変動係数は小さく、1980年代後半以降資源量は安定して推移していると考えられる。なお、各海域における沖底のCPUEに基づいて判断した海域別の水準と動向は、オホーツク海の資源が低位で減少、北海道南海域の資源が中位で増加、北海道西海域の資源が低位で減少であった。



管理方策

沖底のCPUEに基づいて判断した資源状態は、中位で横ばいであった。一方、過去22年間におけるCPUEの変動は小さく、資源量は1980年代後半以降安定して推移していると考えられる。したがって、現在の資源水準を維持することを管理目標とし、資源の変動パターンに合わせた漁獲を行うこととした。近年のCPUEの変動パターンから、ABClimitは2006年の漁獲量に0.98を乗じて算出し、ABCtargetはさらに0.8を乗じた漁獲量とした。

	2008年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	12千トン	0.98C2006	—	—
ABCtarget	10千トン	0.8・0.98C2006	—	—

資源評価のまとめ

- 沖底のCPUEに基づいて資源状態を判断
- 資源全体としての水準および動向は、中位で横ばい

管理方策のまとめ

- 過去22年間における沖底のCPUEの変動は小さく、資源量は1980年代後半以降安定して推移していると考えられる
- 現在の資源水準を維持することを管理目標とし、資源の変動パターンに合わせた漁獲を行うことが妥当と判断した

資源評価は毎年更新されます。